

悠久の時間が息をひそめている。

茶臼山の底からせり出たように

武者返しは

主の長い留守を護っている。

土木の天才が

足かけ七年をかけて築いた

城である。

幾度の戦禍も歴史の風雪も

この石垣を揺るがすことは

なかった。

銀杏城は、ただここに在る。

「清正公は何処におわす……」

櫓を吹く風に武士たちの

声が聞こえる。

加藤清正が肥後十九万五千石の

大名として入国したのは、天正十六年。

いまから、四百年前の

ことである。

